

専攻科特別研究Ⅱ論文の作成について

(副題がある場合は括弧でくくる)

ESの場合、
電気電子情報工学専攻
10ポイント
ゴシック、中央に配置

題目は、和文フォントをゴシック体、
欧文フォントをサンセリフ体とし、
中央に配置する。

9ポイント
Times New Roman
キーワードは3語以上
6語以内、

English Title
(English Subtitle.....)

10ポイント
Times New Roman, Bold

・環境システム工学専攻 AMC19XX 大分 太郎 (指導教員 ○○ ○○)

Key Words: Fluid Machinery, Natural Energy, Wind Turbine, PIV, Guide Vane, Velocity Distribution

1. 結 言

これは、大分高専専攻科特別研究論文原稿作成および提出の要領をまとめたものである。論文は、審査員等が前もって査読し、研究内容を評価するための重要な資料である。

したがって、以下に示す要領に従い、分かりやすくまとめること。

完成までには、通常、指導教員の添削（赤入れ）を何度も必要とし時間を要するので、提出期限までに十分時間の余裕をもって取り組むこと。

2. 提出要領

- 原稿枚数：1テーマにつき A4, 4 ページ以上

【原稿提出期限・提出先等】

- 提出期限：2022年12月20日（火）17:00 まで（時間厳守）
- 提出先：学生課教育支援係
- 提出するもの：A4 用紙に片面印刷された原稿 3部

3. 作成要領

3.1 本文のレイアウトとフォント

本文のレイアウト（1 ページあたりの文字数）は、上下余白 20mm, 左右余白 20mm で文字数は 22×50 行×2 段=2200 字（程度）とする。

本文は、10 ポイント程度の大きさとし、日本語は明朝体、英文は Times New Roman を基本字体とする。本文には、半角かな文字は使用しない。

文章の区切りには全角の読点（、）と句点（。）を用いる。

3.2 見出しの書き方

章見出しは 2 行分をとって、行の中ほどに書く。ただし 18 字以上は 3 行分を必要とする。また、字体はゴシック体で書く。

3.3 節の見出し字体

字体はゴシック体、節の書き出しは節見出しから 2 文字空白を空け、本文を書き始める。

3.4 単位

量記号はイタリック体、単位記号はローマン体、無次元数はイタリック体で書く。

- L : 長さ [m]
- Re : レイノルズ数
- t : 時間 [s]
- x : 流れ方向の座標 [m]
- α : 熱伝達率 [W/(m²·K)]

数学記号・単位記号および量記号は、半角英数字を使用する。単位は、SI 単位を使用し、4 MPa のように書く。数値と単位の間には、半角スペースを入れることが望ましい。

3.5 数式

式番号は、式と同じ行に右寄せして () の中に書く。また、本文で式を引用するときは、式 (1) のように書く。

式を書くときは、次のように左から 2 文字分空白を空ける。

$$\square\square \gamma(t) = ji / N \tag{1}$$

$$\square\square \bar{C}(t) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i(t) \tag{2}$$

また、必要行数分を必ず使うようにして書く。3 行必要とする式を 2 行につめて書いたり、2 行に分かれる式を 1 行に収めたりしない。なお、本文と式、式相互間は 1 行以上の空白を空けて、見やすくする。また、原則として数式エディタのポイント数は本文に準じるものとするが、添え字等が小さく読みにくくなる場合は適宜拡大する。

Table 1 Sample of root and division

Recommend	Not recommend
$\sqrt{(x-y)}$	$\sqrt{x-y}$
$(a+b)/(c+d)$	$a+b/c+d$

Table 2 Sample of expression of values

Recommend	Not recommend
0.357	.357
3.141 6	3.141,6
3.141 6×2.5	3.141 6 · 2.5

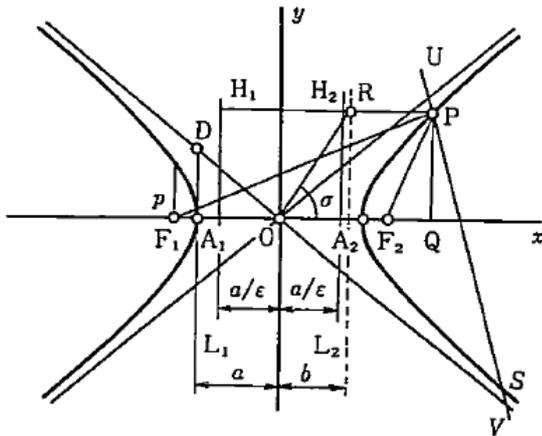


Fig. 1 Sample of clear figure

4. 図および写真・表の作成に関して

- (1) 本文中では、図 1 (または Fig.1), 表 1 (または Table1) のように書く. 写真は、図として扱う. (日本語と英語の表記については、どちらかに統一すること.)
- (2) 番号・説明などは、図についてはその下に、表についてはその上に書く.
- (3) 本文と、図・表の間は 1 行以上の空白を空けて、見やすくする.
 - 図中の文字は判読できる大きさと表記する.
 - 最初の文字は大文字とする.
 - 「Fig.」は「Figure」を略したもので省略の意味で「.」をつける. Table は省略していないので「.」はつけない.
 - 図、図中のキャプションは日本語でもよい.
- (4) 図および表が 1 列 (片側) に収まらない場合 2 段 (両側) にまたがって書くことができる.
- (5) 図および表の横に空白ができて、その空白部には本文を記入してはならない
- (6) 図や表の大きさを調整する場合、縦横比は変えない. (縦または横にだけ引き伸ばすことはしない.)
- (7) 図のグラフに使うシンボルは、○, □, ◇, ●, ■ など形を変えて、明確に分かるようにする.

(8) 図および表は、ページの下, 上, 右側等にまとめて配置することが原則であるが、読みにくい程度で、文中に配置してもよいこととする.

5. 引用文献の書き方

本文中の引用箇所には、右肩に小括弧をつけて、通し番号を付ける. 例えば、新宿・渋谷^{(1)~(3)}のようにする.

引用文献は、本文末尾に番号順にまとめて書く. 文献が多い場合は、「(1) 例えば、…」などの略記や省略表記を用いてもよい.

6. 結 言

テンプレートファイルのスタイルを利用すると、各々の項目の書式が自動的に利用できるのでご利用ください. なお、絶対的な出来上がりのレベルを保証するものではありませんので、印刷結果が望むレベルに達しない場合には、使用の環境に合わせて、各自において微調整を行うなど所定の体裁に最も近い設定を行ってください. また、参考文献の記述等の細部は、指導教員の所属学会の形式に従って、若干の変更は認めます.

9ポイント程度 参 考 文 献

- (1) 木綿・他 5 名, 可変リンク機構をもつ直線翼垂直軸風車の性能, 日本機械学会第 83 期流体工学部門講演会 CD-ROM 版講演論文集, 2005, No.1811.
- (2) 清水・他 2 名, 機論, 64-625 (1998), pp.202-207.
- (3) 林・他 3 名: サボニウス風車の起動性改善に関する風洞実験, 日本機械学会中国四国支部第 42 期総会・講演会講演論文集, 045-1 (2004), pp.301-302.
- (4) 大分・他 1 名, ○○○○○○○○○の研究, 大分工業高等専門学校機械工学科卒業研究, 2008 年度.
- (5) Takeuchi, Y., Ultraprecision Micromilling Technology (Review), *Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers, Series C*, Vol. 71, No.701 (2005), pp. 1-4.
- (6) Nagashima, A., New Year's Greeting, *Journal of the Japan Society of Mechanical Engineers*, Vol. 108, No. 1034 (2005), pp. 1-2.
- (7) Keer, L.M. et al., Resonance Effects for a Crack near a Free Surface, *Transaction of the ASME, Journal of Applied Mechanics*, Vol. 51, No.1 (1986), pp. 65- 69.

Table 3 Physical properties of air at atmospheric pressure

$T [^{\circ}\text{C}]$	$\rho [\text{kg}/\text{m}^3]$	$c_p [\text{J}/(\text{kg}\cdot\text{K})]$	$\eta [\text{Pa}\cdot\text{s}]$
		$\times 10^3$	$\times 10^5$
0	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
10	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
20	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
30	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
40	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
50	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
60	x.xxxx	x.xxx	x.xxx
70	x.xxxx	x.xxx	x.xxx